相原事務局長のナチュラルのーと

Natural Note

vol. 2

私たちの「現在位置」を確かめ合おう

月刊連合6月号でスタートした本コーナー、ナチュラルのーと。この間、構成組織の（ほんの数名の）方々から「あ、読みましたよ」と極めて淡々としたコメントを頂戴。その度「それで？」「良かった？」と即応したいこちらの本心を見破られないよう、「あっ、そ」「ありがとう」と必要以上に素っ気なく対応。そして、あっという間の第2号を迎えました。

いのちを守る絆フォーラム2018

東日本大震災から7年、熊本を中心とする九州地震から2年の時が経過しました。6月6日、連合は「いのちを守る絆フォーラム2018」を開催。当日は、山本連合副事務局長の進行で、連合岩手・佐藤事務局長、連合宮城・大黒事務局長、連合熊本・佐々木事務局長、そして、山根木連合総合組織局長がスピーカーとして登壇しました。（予定していた連合福島の加藤事務局長は急遽ご欠席となり残念でしたが、ご本人のコメントはしっかり山本さんからご紹介がありました。）

困難な日々、連合の結束力

佐藤さんからは、沿岸部の人口減少の実態や小学校における特別な配慮が必要な児童の増加、大黒さんからは、売り上げの戻らない中小企業の厳しい現実や復興状況の被災地内の格差、そして、佐々木さんからは、今回の特徴でもあった前震・本震の状況や関連死の方々の多さなど、困難な環境下にある日々の暮らしがそれぞれ描き出されました。また、山根木総合局長は、のちに自衛隊に次ぐ、延べ3万5000人を送り込むことになる東日本大震災での連合ボランティアの立ち上げと、発災から20日後の3月31日には第1陣を送り出せたことを振り返りました。（今でも私の手帳には「31日9時半連合本部集合。激励、見送り」と記されています。）

「その人」だから「届く」こと

その中でも、私が思わず手元のノートに書きとめたのは、佐藤さんの「皆さんに（厳しい状況を）お話しするのもなんだか心苦しいのですが…」という一言であり、大黒さんの「何が何でも自分の身は自分で守る」であり、そして、佐々木さんの「（熊本には大きな地震は来ないという）根拠のない思い込みがあった」という、それぞれ飾り気のない真っすぐな思い。時と所は違ってもその中に身を置いてきた皆さんだから発せるもの。会場の構成組織、地方連合会をはじめ多くの仲間の心に届いたことは間違いありません。確かにそういう会場の雰囲気でした。

私たちの責任

さて、心に届く貴重な言葉に出会うことができた私たちは、私たち一人ひとりの「現在位置」を確かめ合う必要があります。それは、「まさかないだろう」ではなく、「震災はあり得る」という意識の根付き具合であり、「減災」「縮災」に向けた日々の行動の有無。それは、佐々木さんの「阪神・淡路大震災や中越地震など、過去のさまざまな困難と教訓の上に、今回の九州地震もあると思う」を聞けば当然のこと。今日からできることを今から始めましょう。そして、一層、その輪を広げていきましょう。「いのちを守る絆フォーラム」の意義はそこにあるはず。すべての風化は私たち自身の中から始まります。

明日に向けて一歩ずつ

話は変わりますが、過日、連合山口のトップセミナーにてお話しさせていただく機会を頂戴しました。テーマは「政治」。来年の統一地方選挙、参議院選挙を目前に連合の考え方などについて60分講演、30分意見交換。連合山口の網戸会長、伊藤事務局長はじめ、構成組織の仲間、県議、市議の皆さん、地協役員、退職者連合の皆さんなど幅広い顔ぶれの皆さんに熱心に耳を傾けていただき、また、核心を突くご意見、ご質問を多数頂戴しました。感謝です。私からは、現下の、とりわけ野党の状況も念頭に、「政治とは私たちの求める政策を実現するため参加し活かすもの。政治の力で働く人たちを分け隔てることはできない」と力を込めたところです。少しでも、連合山口に集う仲間の明日につなげることができたなら本望です。なお、セミナー後の懇談会では、さながら来年の統一地方選挙に向けた決起集会風ともなり、大いに盛り上がりました。

その連合山口でのセミナー冒頭では、現下の社会、経済の状況にも触れました。その準備にあたり、私の頭の整理に役立つ1冊がありました。先日、ある方から「読んだ？」と言われ、早速、新井紀子著『AI vs.教科書が読めない子どもたち』を手に取った次第です。大変興味深く読み切りました。単に、AIの将来を探るだけでなく、教育にまで問題意識を広げた内容。「AIにできない仕事ができる人間がいない」には強烈な刺激を受けました。人口減少（労働力減少）と超高齢化の波、そして、技術革新が私たちの労働や生活にいかなる変化をもたらすかに焦点が当たりがちですが、本著はそうしたステレオタイプ的なアプローチに警鐘を鳴らします。ご興味がある方はどうぞ。（最近の私の講演ネタの一部をばらすことにもなりますが。これも世のため。）

要請書はキックオフ

この間、政府および各政党に出向き、「2019年度　連合の重点政策」の要請活動（要請書手交・説明・意見交換）を進めてきました。震災からの復興・再生の着実な推進をはじめとする当面の経済財政運営および2019年度予算編成への反映を念頭に置いたものですが、一通りその活動に目途がつきつつあります。なお今回、要請先から連合に対して質問を頂く回数が多かったのは、いわゆる「骨太方針」で取り上げられた「外国人労働者」の受け入れと、旧くて新しい「学校の働き方」の問題。毎回、意見交換は尽きませんでしたが、連合の多くの仲間の問題意識を盛り込んだまさに手作りの「要請書」。その重みを踏まえたキックオフは概ね完了。後は、ゴールネットを揺らすだけ。皆で走りましょう！（2018FIFA W杯ロシア大会も開幕。日本代表の活躍を祈りつつ。）

この原稿の最終校正中に、大阪北部を震源とする地震が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた皆様へお見舞い申し上げます。